

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第11号については最新の台風予報を参照。
- 5日から6日は、低気圧がオホーツク海に進み、前線が北日本付近を通過する。東・西日本付近は高気圧に覆われる。熱帯じょう乱が沖縄の南を北上する。
- 7日から8日は、太平洋高気圧の日本付近への張り出しが弱まる。中国東北区に別の高気圧があり、太平洋高気圧との間になる北日本付近に前線がのびる。熱帯じょう乱は、沖縄付近で動きが遅くなる。
- 9日は、低気圧がオホーツク海に進む。日本付近は、高気圧縁辺や熱帯じょう乱をまわる湿った空気が流れ込みやすい。

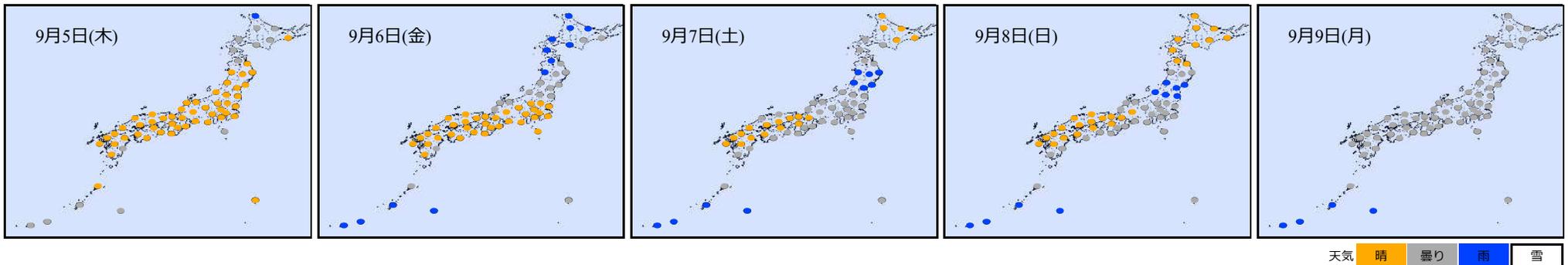
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 気温が平年よりかなり高くなる所がある。猛暑日となる所もあり、熱中症など健康管理に注意。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

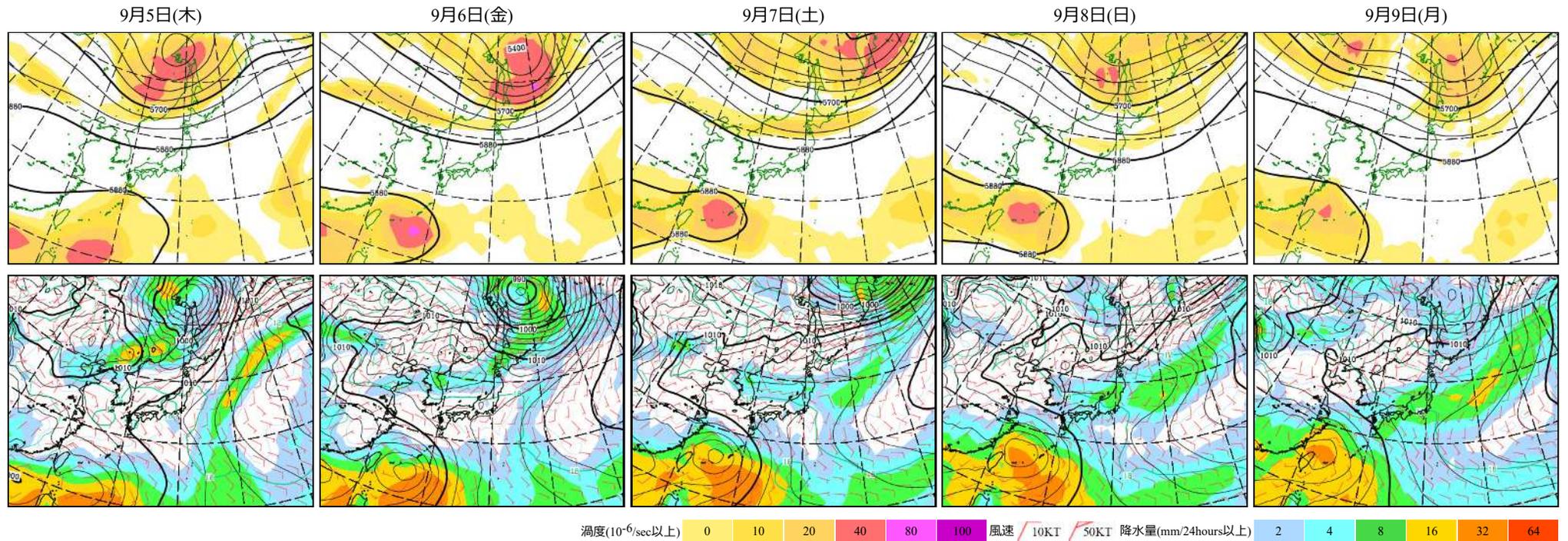
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

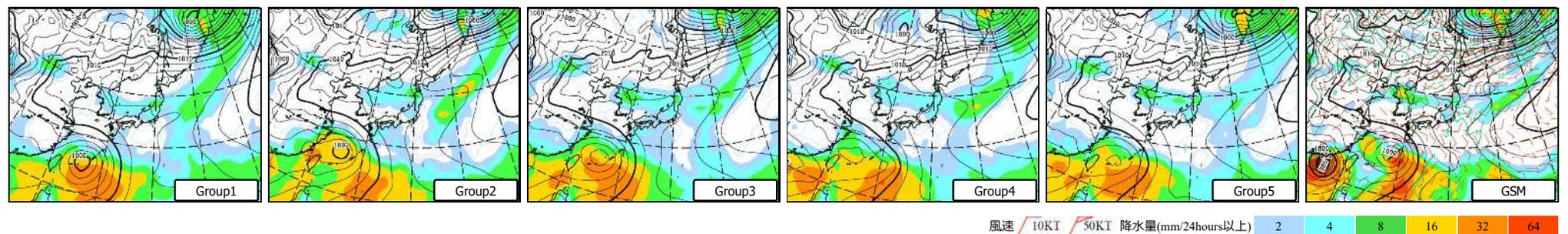


- 北日本は、5日は晴れや曇りの所が多い。6日から9日にかけては、曇りや雨の降る所が多いが、晴れる所もある。
- 東日本と西日本は、晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月7日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、期間後半の日本の東のトラフが浅くなり、日本谷傾向が続く予想となった。東北付近にかかる前線も明瞭となった。また、台風第11号とは別の熱帯じょう乱が、沖縄地方に進む予想となった。
- スプレッドは、期間の中頃にかけては比較的小さいが、期間の終わりは5700mの特定高度線のばらつきが大きく、サハリン付近を通過するトラフは不確実性が大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に作成する

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。